

「1号はもっと残念だ」と、言われました。戦後、20年近く経った頃、海軍兵学校在校生だった者たちの会が、東京新宿の厚生会館で開かれ、その日に、第1回の分隊会が行われたような記憶がありますが、山澄生徒とは久しぶりにお会いして「なつかしい」と言われたおぼえがあります。

その後の分隊会にも、特に用のない時には必ずお見えになりました。

妻を亡くして、ひとりぐらしの私の家にも来て頂いて、泊まって下さったこともあります。

あまり散らかって汚いので、驚いた様子でしたが、それは言葉にせず、にこにこ米国留学で貴重な体験をしたことなど話されました。

自分のお父様やおじい様が海軍将官であったことなどは口にはせず、「おやじ」というのは中村梯次教官のことで、いつも尊敬していました。

分隊会には、一昨年の会迄は元気なお顔を見せて頂いたのに、昨年は見えない。どうしたのかと思っただけでしたが。

報を受け、私はお通夜に参上。海上自衛隊関係の方々が多数おいででした。翌日の告別式に中村教官が参列されたとのことです。

佐藤利雄生徒は、分隊会に出席されたことはありませんが、電話で去年11月10日、肺がんのため逝去と久美子夫人より告げられました。

やさしい感じで、一度もなぐられたり、どなられたことはありません。20年4月末、入校教育を終えた3号生徒を祝う会が養浩館で酒保係の佐藤生徒の司会で行われ、3号ひとりづつ自己紹介することになったのですが、私が、

「中学で相撲をやりました。…強かった…」

というと、一〇二分隊の1・2号生徒の相撲訓練を見てどう思うかときかれました。

「大したことないな、と思いました」と答えると、佐藤生徒は嬉しそうに

「相撲訓練の時の佐藤を大いに期待している」と言われました。

川西尹生徒も分隊会に出席されたことはありませんが、今年7月12日に胃がんのため亡くなられたことを奥様よりお知らせがありました。

私と同じ大連市の出身。中学は違いますが、アイス・ホッケーの選手として、戦後、スケート場でお目にかかったことがあります。

兵学校では、タオルをなくして、フロから上って体を拭くこともできずマゴマゴしている私に、新調のタオルを「やる」と言って下さったことを思い出します。

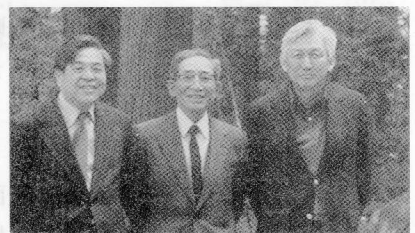
今年、新昭一生徒の逝去、15周年になります。

新生徒についての思い出は一〇〇〇ページの冊子でも書ききれないでしょう。

兵学校時代は、3号の先任として、私がぼやぼやしているのが、私が伍長になぐられるべき所を、「生任たる新の責任だ」と、なぐられたこともあり、大いに迷惑をかけたのに、一度も私を責めたことはありませんでした。

戦後、一〇二分隊会が毎年開催されたのは、全く新生徒の尽力によるもので、その度ごとにきれいな所を並べて、座を引き立たせてくれました。

妻が死んだ日、直ちに夫人と共に病院に来て、慰めてくれました。



翌年、新社長の会社で顧問となられた中村教官、そして夫人と共に佐渡旅行に出かけました。この旅行にあまり乗り気でなかった私ですが、歴史上有名な旧蹟なども訪れ、すっかり嬉しくなり、元気になりました。

お便り①

○新 文字

御無沙汰致して居ります
お元気にお過ごしでしょうか
六月十五日 せつかく おさそいいただいたのですが、用事がございますので欠席させていただきます。申し訳ございません。

皆様におよろしくお伝え下さいませ。

○石丸道子
苦楽を共にし47年まだまだこれからとの思い込みも空しいものになりました。

闘病日誌より
「サー 癌との闘いだ 必ず引つ込ませてやる」「そう簡単に降参しないぞ 今に見ておれ」最後に「やることは山程ある 夢よもいちど」と結ばれておりました。

中村教官をはじめ皆様本当にありがとうございます。